

平成23年9月30日

周南市長 木村健一郎様

新南陽地区地域審議会

会長 吉谷川 亮



(仮称)学び・交流プラザ基本設計(案)に対する意見書

(仮称) 学び・交流プラザ基本設計(案)に対する意見書を提出するにあたり、山口県中部基幹文化都市としての、周南市への発展について大きな期待と、新しい市政の行政力と指導行動を期待していることを申し添えます。

意見書は一部として、当市の将来への夢と期待を提案し、二部として、具体的な市民の要望として記します。

【 一 部 】

今回の意見は、(仮称) 学び・交流プラザに焦点が当たることは避けられませんが、周南市が県中央部の基幹文化都市として、発展することが求められていることを、地区としては十分に理解しております。

間近に迫った高齢社会と、人口減少社会を見据えた行政を市長にお願いするとき、多くの市民が参加する施設は、地域分散型の配置が必要であり、そうではない施設は、全市に必要な機能を配慮することが、適切だと考えております。

一方では、市民の活性化を図るとき、一点集中的な都市よりも地域の特性を生かした機能分散都市(副都心思想)が、市民の最大貢献意識を生みだし、市政の活性化につながると信じております。(仮称) 学び・交流プラザ構想の成否は、30年後の市民が判断することかも知れません。今、意見することは、30年前の社会環

境での設備を復旧するのでは決してなく、30年後の社会環境を配慮した設備を提案して頂きたいと思います。

現在周南市に不足している機能を建設し、市として山口県に誇れる文化都市を実現することが市民の夢でもあります。

幸いにして、周南市民は、時代を先取りした行政を認めてきた経験をもっております。戦後の道路行政にみる徳山駅周辺の基幹道路や、大き過ぎると一部の批判があったにも関わらず県中央部の基幹ホールとなっている文化会館等に、先人の大きな力を感じます。

行政改革が求められている中で、市民のCS（顧客満足）の極大化と、利用頻度の少ない施設の利用による、コストミニマム対応のソフトが必要だと考えられます。

それには、市民参画の企画が求められており、本審議会におきましても、（仮称）学び・交流プラザ平面図（案）提出前の段階からの情報提示と市民参画を強くお願いしてまいりました。

残念ながらそれはかないませんでした。地域市民の理解は、古い設備の必要な機能は最低限確保され、新しい時代にふさわしい機能が付加されると、信じてきたのであります。

新しい投資を、全市民のために真に有効な投資とするためには、これから到来する新しい時代にふさわしい機能を追加してこそ、多くの市民に、投資に見合った成果として理解されるものと思っております。

新しい設備につきましては、基本設計を活かしつつも、その内容を一時白紙に戻して、現状設備の活用も視野に入れつつ、従来の利用されている機能の確保案を官民一体で検討されることを提案いたします。

利用者に新たな負担を求めない既存設備の利用ソフトの検討などで、代替施設の提案をしていただき、決定案として採用されるよう要請いたします。

最後にあえて申し上げれば、今回の意見は地区のエゴを代表しているのではなく、周南市の将来を見据えた意見であることをご理解頂き、事務局への作業をご指示いただき、ご判断をお願い出来れば幸甚です。

【 二 部 】

（仮称）学び・交流プラザ建設計画の進捗段階から見れば、意見をここに限定することもやむを得ないと考えます。市が提示された基本理念の実現に向け、建設目的に見合った設備と、運営ソフトの実現を検討して頂きたいと考えます。

■全体について

- 予算ありきの作業ではなく、将来に向けた真に有効な投資をお願いしたいと考えます。
- 高齢社会と、周南市民全員の使用を目指すとき、入口へのバス配車が必要とされます。

■文化ホールについて

- 400席ないし500席の本格的なホール機能は、演劇や、小さい規模や編成で演奏される室内楽等の音楽を鑑賞できる設備として、当市のみならず周南地区の為にも、必要な設備と考えます。
- 本設備は、学校の文化祭等にも多く利用されるべきで、学校の講堂での発表を超えて、高齢者を含む多くの観客に成果を披露することも、時代を先取りした大きな教育効果が期待されるのではないのでしょうか。
- 経済団体や福祉団体などが、現在のホールを多く利用しており、市の活動に大きく貢献しています。機能を高度化することによる利用者層の拡大と利用率の向上こそが、投資の本質と考えます。

■図書館について

- 現在の図書館のリニューアルも視野に入れ、館に期待される機能を詳細に分析して、これからの時代に不足する機能のみを建設することも一案と考えます。
- 図書館は、本の貸し出しだけが目的ではなく、多くの市民の学びの場として、静かな空間も、新しい機能として必要ではないのでしょうか。そのことも踏まえ、場

合によっては2階に独立させるなど、ほかの施設機能とは隔絶をしたものとして、整備されるよう検討をお願いいたします。

■アリーナについて

- この設備で公式大会を計画されるのでしょうか。設備機能は、公式大会に耐える性能が求められますが、公式大会を計画するのであれば、観覧席については充実する事が必要です。
- 新南陽体育館は、県教育関係者間でも使いやすい規模の会場として評価されており、他市との交流の場として機能しています。このことから、観覧席を充実することが必要と考えます。
- アリーナを活用して開催される室内運動会やスポーツ大会などの事業において、参加者同士の交流を深める意味から、アリーナ内での飲食についても可能な限り検討をお願いいたします。

■武道館について

- 新設された富田中学校の武道場をスポーツ少年団など外部の市民が利用するのであれば、更衣室や武具室の整備や、学校行事との調整や使用可能時間帯などを公表した上で、提案すべきではないかと思えます。
- 教育現場との調整が出来なかった場合、後から武道館を建設するのですか。現実的には困難と思われることから、(仮称)学び・交流プラザへの武道館機能の整備について再考していただきたいと考えます。